

## 東海村山田修村長が「東海第二の再稼働推進発言」!? 住民の声はどこへ？

## ◆「BWR全般の話」は通用しない

原子力業界誌「ENERGY for the FUTURE (エナジーフォーザフューチャー)」（ナショナルピーアール社・東京）の10月5日号に掲載された、東海村の山田修村長と新潟県刈羽村の品田宏夫村長の『BWRの再稼働』と題した対談記事の中で、東海第二原発の再稼働を推進するような発言が掲載されました。

のちの東京新聞の報道で、「東海第二原発に限った話ではない」と釈明していますが、本誌を読めば「東海第二原発」の話をしていることは明らかです。主な発言は以下の通りです。

「(東京電力に) 安定的に電力を供給するためには東海第二に期待するところは大きいのではないか、だからこそ原子力専門会社であり、会社の規模も小さい日本原電を東京電力と東北電力が支援していこう、という動きになっているのではないか」

「新規制基準が出来て、ものすごい安全対策が二重、三重に出来ているのですから、論理的に考えれば、時間的なものも含めて、同じような事故はまず起こらないと思うはずですよ」

「特定重大事故等対処施設も入れると3000億円近い工事費をかけてやったものに対して、さらに何を求めるのか」

「自分たちの理屈を押し通したいという人たちがいて、一般の冷静な人はそういう人たちに巻き込まれたくない、関わりたくないという雰囲気があって~略~原子力について考えようという雰囲気がでてこない」「自分にとって必要ないと言う人はいるのでしょね。そうおっしゃる人は、全ての外部電源を遮断して自家発電だけで生活してもらわなくてはいけない」

同誌は、言わば原力業界誌で、主に自治体向けに販売されているものです。表向きは「住民の意向を取り入れて」などの発言をしていた山田村長が、原子カムラの中では言いたい放題に再稼働を容認する発言をしていたもので、住民としても到底容認す

ることはできません。

11月15日に東海村の再稼働反対の村議4名が村長と面談し、真意を問い質しました。村長は「社会インフラとして安定的な電気を今、火力が担っているが、それだけで大丈夫なのかという思い」だったと発言し、「行き過ぎた発言」と釈明しました。

原発いらないアクションとして発言の真意を確かめたいとして面談を申し込み、11月20日に面談する予定です。面談の報告は、次号ニュースにてお知らせします。

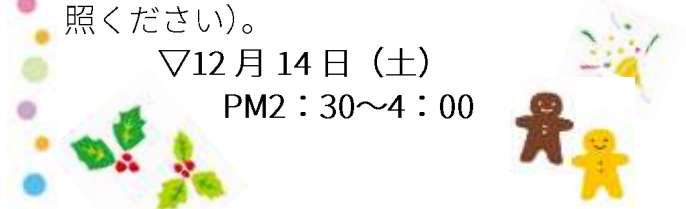


### ★クリスマス街頭宣伝★ にご参加ください!!

偶数月の第2土曜日の午後に行ってきた水戸駅南口での街頭宣伝、今年最後の宣伝行動はクリスマス宣伝として楽しくにぎやかにいきます。たくさんご参加ください(詳細は同封のチラシを参照ください)。

▽12月14日(土)

PM2:30~4:00



**【署名にご協力ください】** 前号ニュースに、「避難者訴訟」福島原発被害弁護団、「生業を返せ！地域を返せ！」福島原発訴訟の署名を同封させていただきました。ご協力いただきました方、ありがとうございます。引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。今のところ締め切りはありませんが、お早めにご返送いただきましたら幸いです。

## ～山田発言、私はこう見る～

\* 佐藤英一さん

山田発言が口火となり類似の発言が続いて東海第二再稼働への流れがつくられていくのか、それとも山田発言が委縮し打消されていくのか？再稼働反対闘争の一つの分岐になるのではないかと。山田村長の原発安全性や避難計画の発言自体は、原発の都合に合わせた粗雑なもので、容認すれば住民を危険にさらすことになる。住民は質問・交渉を通してこれを明らかにすることが必要だ。

直下型地震の過小評価、津波に乗った大型船衝突、難燃性ケーブルへの転換不十分、水蒸気爆発、福島と同じ原理の水位計、立地審査指針の完全無視、10年余の技術ブランクの危険、無茶なコストカット強行の危険、人知を超えた事故の発生を軽視（安全の吹聴）、事故事象の進展が分からない住民に屋内避難を強いようとする無責任、複合災害を無視した避難論などを一覧にまとめて、危険性と思惑停止した山田村長の無責任を追及したい。

山田村長は、対談の発言を、早くも一般論にすりかえ東海第二のことではない、と逃げ始めた。山田発言の後継者が出ないように、確実に消火しておくこと肝要。また、大井川知事に追認してもらって借りを作ったことに留意。対談の発言は一般論であると弁解する根拠は何か？①東海第二再稼働の事前了解に直接言及していないから②原電から再稼働事前了解を求められていない段階での発言だから③住民の意見を聴いて判断したものでないから。

山田村長は、別途個別のルートで情報を得ているとみられるし、もはや再稼働賛成の方向を示しているので、新安全協定による協議の必要を感じず、原電との協議のイニシアチブをとらないのではないかと。結局、周辺5市には情報の蚊帳の外に置かれ、工事が進む懸念があるので、5市には待ちの姿勢(受け身)ではなく、積極的に協議してもらうよう要請が必要。

避難計画を安全対策の進化を理由に段階的避難

が可能として、5市に決断を迫っている構図(圧力)は5市を努力不足と詰っている形になっている。5市から山田村長に撤回を迫ってもらう取り組みも必要である。東海村の避難先である、取手市、守谷市及びつくばみらい市の3市議会は再稼働反対決議済み。避難先3市は不快に受け止めるはずで、矛盾をつくった。

\* 川澄敏雄さん (Twitter より)

山田村長の、ケーブル問題についての認識は、事実と反している。

原電が「(非難燃ケーブルは)トレイごと防火シートで巻く」という方針を、規制庁の「できるだけ難燃ケーブルに取替えるべき」という指摘に応じて、あたかも難燃化率を上げるかのような言い方をしている。

「塗料」から「防火シート」に変更したという事実はある。「検討した結果、防火シートがいい」と原電が自ら言い出したことだ。

全長1400キロのケーブルのうちの約30%が「安全系」。そのうちの52%、つまり全体から見れば約15%を難燃性に交換するだけだ。この数字は、一貫して変わらず。

本来は、安全系/非安全系に関係なく、全部、難燃性にして当然。1980年代に建設された原発は、そうなっている。だが、東海第二原発は新規基準のあいまいさに助けられる形で、ケーブル全体の6割強が燃え易い物のままで再稼働しようとしている。

「(取り替えないのは)手抜きだ」・・・と言っていたのは、他ならぬ山田村長だ(2016年8月東京新聞)。「規制庁の要望に応え出来ることは限りなくやっています」なんて、良くもまあ言えたものだ。



**【活動支援カンパにご協力ください】** 東海第二原発をめぐる状況が逼迫し、ニュース発行やチラシ作成が重なり、郵送料金など費用がかかるようになってきました。年一回の会費請求でやりくりしておりますが大変厳しい状況です。活動継続のため、カンパ等のご支援いただけますようお願い申し上げます。  
(ゆうちょ銀行 00270-5-83034 /〇二九支店 当座 0086034 さよなら原発いばらきネットワーク)

◆ **〔ご報告〕 STOP! 東海第二原発の  
再稼働いばらき大集会**



11月16日、水戸市の駿優教育会館音楽ホールで、原発いらないアクション主催の大集会が行われました。会場ほぼ満席の700名の参加で、昨年9月の大集会に引き続き、熱気のこもった熱い集会となりました。

今年の集会では福島から、浪江町請戸漁民の高野武さん、福島原発事故避難者の大賀あや子さんから、それぞれ訴えをいただきました。

また賛同人の元日本医師会会長の原中勝征さん、茨城県生協連会長理事の佐藤洋一さん、県北地区農協・常陸農協常務理事の小泉信行さん、社会福祉法人淑徳会の伏屋淑子理事長が訴えました。また、五十嵐立青つくば市長、中島栄美浦村長のメッセージが紹介されました。

集会後のデモにもたくさんの方が列に加わり、水戸市街を「東海第二原発の再稼働反対」の声を響かせました。集会の最後には、決議を採択しましたのでその内容をご紹介します。



**「日本原電東海第二発電所の  
再稼働に反対する決議」**

日本原子力発電株式会社の東海第二発電所は、いよいよ再稼働に向けて動き出しました。保安林解除の申請がとおり、敷地内の松の木の伐採を始めています。特定重大事故等対処施設の建設も610億円をかけて始めようとしています。そして電力5社は原電に3500億円の支援を決定しました。国費を投入されて原電を支援するどころではない東電が、そのうち2200億円も出そうというのですから許されることではありません。そしてこれを回収するために電気料金に上乗せさせて利用者に負担させるというからくりです。

東海第二原発は、すべてのケーブルを難燃ケーブルに交換せず、燃えやすいケーブルを6割も残す基準違反で合格させた原発です。そして東日本大震災で被災して点検しきれない多くの損傷箇所を残している老朽被災原発です。

また、自治体がつくらされている避難計画は、複合災害が全く考慮されていないことをはじめとして、多くの困難な課題の一つとして克服できていません。実効性のある94万人もの避難計画は永遠に策定できないでしょうから、再稼働も永遠にできないはずです。その上、核廃棄物の処理処分もまったく未定のままです。

なにより、住民の避難計画を作らなければならないような危険な原発は、そもそも動かしてはならないものです。なぜ、一事業者の利益のために、地域住民が避難の心配をしながら毎日を過ごさなければならないのでしょうか。

このようにあらゆる角度から見て、事故のリスクを背負っても再稼働させる合理的理由など何もないのです。福島第一原発の事故を見て誰の目にも明らかのように、原発事故は広範な地域に壊滅的な被害を生みます。東海第二原発でひとたび重大事故が起これば、無限の損害を生み、100万を超える住民が流浪の民となり、その被害は首都圏にまで及び、

<HOT ニュース@東海第二原発>原告側「借入金は返済不可能」東海第二差し止め訴訟（東京新聞茨城版 2019年11月8日）東海村の日本原子力発電（原電）東海第二原発を巡り、住民らが原電に運転差し止めを求めている訴訟の第二十七回口頭弁論が七日、水戸地裁（前田英子裁判長）であった。原告側は、原電の経理的基礎について説明を要求した。原告側は、原発の事故対策工事やテロ対策施設に多額の費用がかかるのに対し、東京電力や東北電力から借入金を調達しても、原電の近年の経常利益を考えると、「返済は不可能」と指摘した。電気料金も高くなることが予想されることから、原電側に借入金の返済と再稼働後の売電価格について明らかにすることを求めた。次回の十二月十二日からは証人尋問が始まる。原告側は、地震学者の野津厚さんや元東芝の原発設計技術者、後藤政志さんを証人にする予定となっている。（松村真一郎）<http://bit.ly/2NZdVFA>

国の政治経済を大混乱におとしおとします。再稼働は今の私たちはもとより、子や孫たち、いまだ生まれていない未来の人たちにも災厄を押しつけるものにほかなりません。

しかし、原発事故は、自然災害とは違って、理性ある人々の知恵と行動によって避けることができるものであり、東海第二原発を再稼働しないことが最も安全です。

また、関西電力幹部への多額の金品授受は原発マネーに群がる闇の存在をあきらかにしましたが、原発再稼働に絡み、汚れた原発マネーがやり取りされていることを許してはなりません。

新安全協定では、東海村を含む6自治体のうち1自治体でも反対なら再稼働できないとされています。住民の民意が生かされ、再稼働を認めないという決断をするよう、各首長を応援し、みんなの力で再稼働を止めましょう。

私たちは、今日ここに「STOP!! 東海第二原発の再稼働」の多数の世論と市民の力強い連帯を確認しました。一人ひとりが「東海第二原発の再稼働にNO!」の声を上げ、廃炉にするまで粘り強く闘い続けましょう。

日本原電は再稼働を断念せよ!

首長懇談会の6首長は再稼働に同意するな!

以上、決議いたします。

2019年11月16日

STOP!! 東海第二原発の再稼働

いばらき大集会参加者一同

\*\*\*\*\*

### \*いばらき原発県民投票

▽11/17 現在、県全体の受任者登録数は2,200となっています。受任者登録をすすめるよう、県内各地で県民投票カフェ・受任者の会が行われています。お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

\*つくば市カフェ 11/24(日)10:00~

吾妻交流センター大会議室

### ☆県民投票フェス Vol.3 県内各地同時開催☆

12/1(日)

・シール投票(水戸駅南口 13:30~14:30/取手駅西口 10:00~14:00)

・地域受任者交流会(水戸 15:00・五軒市民センター/土浦 14:00・県南生涯学習センター小講座1/つくば 14:00・つくば市役所コミュニティ棟会議室2)

・「県民投票?原発?大学生の本音トーク」筑波大学構内にて 16:00~16:45

※最新情報・詳細はHP、SNS等でチェック!

\*行方市カフェ 12/7(土)13:30~

行方市玉造公民館 談話室

\*北茨城市カフェ 12/14(土)13:30~

関南多目的集会所(北茨城市関南町関本下674)

\*筑西市カフェ 12/14(土)13:30~

しもだて地域交流センターアルテオ2階会議室B

▽県民投票の会ポスターができました(2種)。掲示のご協力をいただける方は、花山(029-231-4555)までご連絡ください。



←しっかりポスター

↓ほのぼのポスター



【問合せ】いばらき原発県民投票の会

【連絡先】[ibarakitohyo@gmail.com](mailto:ibarakitohyo@gmail.com)

070-5079-6308 (事務局)

HP <https://ibarakitohyo.net/> TW @ibarakitohyo

発行; さよなら原発いばらきネットワーク

東茨城郡茨城町谷田部895

TEL029-219-1031/FAX029-219-1032

HP; <https://t2hairo.jimdo.com/>

TWITTER; t2hairo

FACEBOOK; さよなら原発いばらき

